

- 1 課題名 漁場効果調査
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成6年度～
- 4 担当 企画情報部（小久保友義）
- 5 目的

水産基盤整備事業に係る事業評価および今後の事業推進に資するため、魚礁漁場における漁獲量等の漁場効果を明らかにする。

6 成果の要約

1) 試験方法

(1) 熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

調査対象の中層浮魚礁は、I礁（白浜町市江崎沖）、SU礁（すさみ町江須崎沖）、S礁（串本町潮岬沖）、KU礁（串本町梶野崎沖）、K礁（太地町梶取崎沖）の合計5ヶ所である（図1）。調査は、和歌山南漁協（本所・すさみ支所）、和歌山東漁協（本所・古座支所・浦神支所）と宇久井漁協に所属する曳縄釣漁業者14隻に標本船日誌（出漁日ごとの漁獲位置・漁獲物・漁獲量他）の記帳を依頼した。調査期間は、曳縄釣漁業が最も盛期となる3～5月の春漁を主体としたが、和歌山東漁協（本所・浦神支所）では戻りカツオを対象に10～11月にも行った。なお、調査は4月～翌年3月まで周年にわたって実施しているが、結果については暦年で取りまとめた。

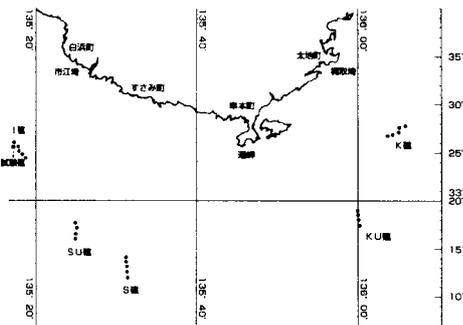


図1 中層浮魚礁の設置位置

(2) 日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

白浜町日置沖合へH20年度に設置された大型魚礁（図2）を対象として、効果調査を実施した。調査は、和歌山南漁協日置支所の職員が市場に水揚げした漁業者の作業場所を聞き取り、対象魚礁で作業した漁船の水揚げデータを収集した。

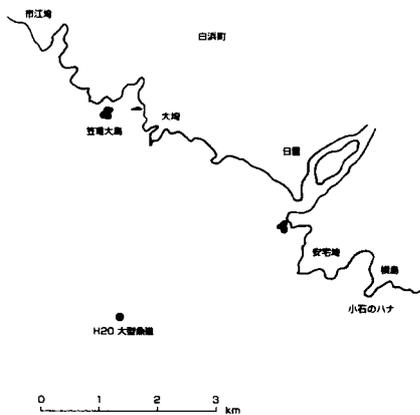


図2 大型魚礁の設置位置

2) 成果の概要

(1) 熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

標本船は、延べ641隻操業し、カツオ17.8トン、その他（ビンナガやキハダ他）3.4トンを漁獲した。このうち中層浮魚礁の利用延べ隻数と各魚種の漁獲量は、表1のとおりであった。

表1 中層浮魚礁の利用延べ隻数と各魚種の漁獲量

利用魚礁域	利用延べ隻数	カツオ	その他
I礁	10隻	288kg	8kg
SU礁	9隻	194kg	9kg
S礁	8隻	140kg	5kg
KU礁	20隻	337kg	80kg
K礁	4隻	48kg	0kg

この結果をもとに、漁協別標本船での漁獲率（中層浮魚礁での漁獲量/全漁獲量）から、漁協別の中層浮魚礁での漁獲量は、表2に推定された。

表2 漁協別の中層浮魚礁での推定漁獲量

利用魚礁域	利用漁協・支所名	カツオ	その他
I礁	和歌山南漁協本所	3.0 ^ト	87kg
SU礁	和歌山南漁協本所・すさみ支所	2.9 ^ト	185kg
S礁	和歌山南漁協すさみ支所	2.8 ^ト	105kg
KU礁	和歌山南漁協すさみ支所		
	和歌山東漁協本所・古座・浦神支所	7.4 ^ト	487kg
K礁	宇久井漁協		
	和歌山東漁協本所・浦神支所	2.6 ^ト	0kg

中層浮魚礁全体では、カツオが18.7トン漁獲されたことから、調査期間中の3漁協全体（586.5ト）に占める中層浮魚礁でのカツオの漁獲率は3.2%となった。

(2) 日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

大型魚礁では、6月に延べ69隻の利用があり、イサキのみ1,227kg水揚げされた。対象魚礁が、設置後間もないため、イサキの増集が盛漁期に少なかったことから、利用率が低くなったものと考えられる。

7 成果の取り扱い

1) 成果の普及

これまでの成果は、水産基盤整備事業に取り入れられた。

2) 成果の発表

特になし